

U7+ Intergenerational Roundtables

第1部：気候変動、不平等と世代間正義

共同司会：ジョージタウン大学（アメリカ）、ケープタウン大学（南アフリカ）

開催：ノースウェスタン大学（米国）、U7+学生リーダー委員会

イベント概要：さいとう ひなこ（慶應義塾大学、学生）

ジョージタウン大学とケープタウン大学が共同ホストとなり、世界各国の20を超える大学から80名の参加者がオンライン上で集まる“U7+ Intergenerational Roundtable Series”の第一弾が行われた。今回U7+の学生代表から寄せられた議題は「気候変動がいかに世界の格差及び不平等、そして世代間正義に影響を及ぼしうるか」である。会議は三部構成で行われ、議論の概要に関するホスト校からの発表、30分のブレイクアウトセッションでの議論、そして各ルームの議論発表という流れで1時間半に渡り行われた。気候変動が及ぼす影響を話し合うにあたり、以下三つの大きな課題が提示された。

1. 次世代に対して現代を生きる我々が負う責任とは何か、そして社会のあるべき姿と経済的繁栄の均衡をいかにとるべきか
2. パリ協定における主要問題がいかに世代間正義に関連し得るのか
3. 気候変動が先進国と発展途上国の格差、そして世代間正義に及ぼす影響に関する幅広い議論をいかに若い世代に開かれたものとするか

第一部では、ホスト校であるジョージタウン大学とケープタウン大学から枠組みとなる前提知識のインプットがなされた。以下が発表の重要な趣旨である。

- 深刻な地球温暖化問題を解決するため、脱炭素社会実現への努力が世界各国でなされているが、未だ達成値と目標値の間には大きな乖離がある。
- 二酸化炭素排出量の少ない国に、排出量の多い国が負担を転嫁しており地球規模の不平等が助長されている。多くの発展途上国では既に過去最悪レベルの気候変動に直面しており、健康や生活そのものに悪影響を及ぼす死活問題となっている。
- 気候変動問題に関して、若い世代が議論に加わるのが重要である。従来制度では、若者の意見が反映されているかが不透明であるため、彼らの意見が反映されることを保証する新たな制度を構築すべきである。

- 既に気候変動問題は遠い未来の話ではなく、喫緊の対応が求められる。気候変動の被害者である発展途上国に目を向け彼らを支援し、将来世代のためにも今行動を起こさねばならない。
- 資源配分が平等に行われること、所与の地域格差を理解すること、手続き上の正当性を確保すること、これらが正しく行われる社会を実現すべきである。

第二部では、30分間に渡り第一部の内容を踏まえた議論が5~6人のブレイクアウトセッションにて行われた。第三部では、第二部で話し合った内容を、各グループの代表1名が1分程度で発表した。発表の内容は以下の通りである。

- 経済の繁栄と環境政策は必ずしもトレードオフの関係性ではない。環境政策が全て高額であるという思い込みを捨て、両者が共に成長する道を探すべきである。「エコフレンドリーな施策が常に経済を害すると考えるのは間違っている」という意見が出た。
- 気候変動問題を全て経済の文脈で捉えるのではなく、社会や自然環境的観点からも考えるべきである。倫理や価値観に基づいた問題へのアプローチ方法は、経済繁栄に固執せずにサステナブルな社会を形成するのに役立つ。
- 一般市民と政府とのコミュニケーション経路が確保されなければならない。政府が行動を起こすように、社会や市民が圧力をかけていくべきである。
- 気候変動問題に関して、利益を享受する者と不利益を被る者が存在することを各々自覚しなければならない。先進国と発展途上国には確固たる格差が生じており、協調精神を以て過度な愛国主義に傾くことを避ける必要がある。
- 政府は政策立案に際し長期的な眼差しを養うと同時に、手続きや成果の透明性を確保するべきである。
- 年齢や国を超えた幅広い主体からの意見を集約するため専門家だけではなく、あらゆる人々に開かれた議論となるべきである。しかし、一方で多様な背景を持つ人々の意見を折衷することは容易ではなく、根強い努力が必要とされる。
- 個人の生活レベルで気候変動問題を考え、身近なことから行動を起こしていくべきである。市民レベルでのつながりを維持し、ローカルな環境問題を議論する場を設けるのが良い。大学がコミュニティとの架け橋となるべき、という意見も出た。
- 問題意識を培うために教育の果たす役割は非常に大きい。若い世代が意思決定プロセスを正しく理解し、現実の政策立案に積極的に関与する主体性を養えるようにする教育を小学校の段階から始めるべきである。また学校という公式な教育方法のみならず、メディアを活用した非公式な教育が果たす役割も無視できない。

- 「今、現実に気候変動が大きな問題となっているのだから、それを将来の問題と捉えるべきではない」という意見が出た。未来の世代のことばかりを考えるのでは現代世代の当事者意識を減退させてしまうため、現在のコミュニティをいかに助けるかを真剣に考えるべきである。

